

留萌の海水浴場

夏場の留萌といえば言わずと知れた海水浴が名物になっている。特に内陸上川、空知地方から道北の短い夏を満喫しようと集まってくる。そして、海水浴場といえば現在では浜中海水浴場と決まっている。しかし、昔の海水浴場はあの場所ではなかったと言ったら若い人たちはきつと「ウッソー。」と奇声をあげるに違いない。戦後生まれの人たちには海水浴場といえば浜中という発想が染みついている。

ところが大正から戦前生まれの人たちに言わせると「いや、浜中からもつと留萌よりいい砂浜の海水浴場があった。」というだろう。また、「留萌の海ならどこでも泳いだもんだ。」という人たちもいることだ

福士広志

海のふるさと館学芸係長

ろう。

むかし、現在の市立病院の下の辺りが留萌の海水浴場であった。大正十三年に発行された「記念写真帳」

毛海水浴二適又はレヲ以テ夏季二北海道中部地方ノ子女来浴スルモノ年ト共ニ激増ス

とあり、大正時代には既に



大正時代の瀬越浜海水浴場

留萌の名勝の一つとして神居岩温泉、千鳥ヶ丘とならんで

瀬越濱

駅より十七丁、長汀渚を洗ふ小波に夕陽が静かに彼方に沈む眺めも良けれど七月より八月に掛けて此の恵まれた海濱に水を慕いて集まる町内はもとより中部本道の人士年毎に多きを加え諸設備と共に誇れるべきものがある。鉄道当局には近くに仮乗降場を開設、地方の来遊に便宜を図っている

と紹介されている。

このように管内随一の規模を誇った瀬越浜海水浴場も昭和三十年代から海岸侵食の進行により砂浜が削りとられ、新たに増毛よりの浜中海水浴場へと移っていった。

に写真が載っており、その海水浴場として内陸部まで名が知られていたようである。

海水浴場

留萌町ノ西北端瀬越海濱 また、昭和八年の「留萌八海波穏二細砂遠く連り最港大観」という本の中では

現在は留萌海岸ゴールデンプーチリゾート構想に基づいて、瀬越く浜中までの海岸線が整備されはじめた。二十年後の留萌市民はどんな海水浴場で夏を過ごすのであろうか。